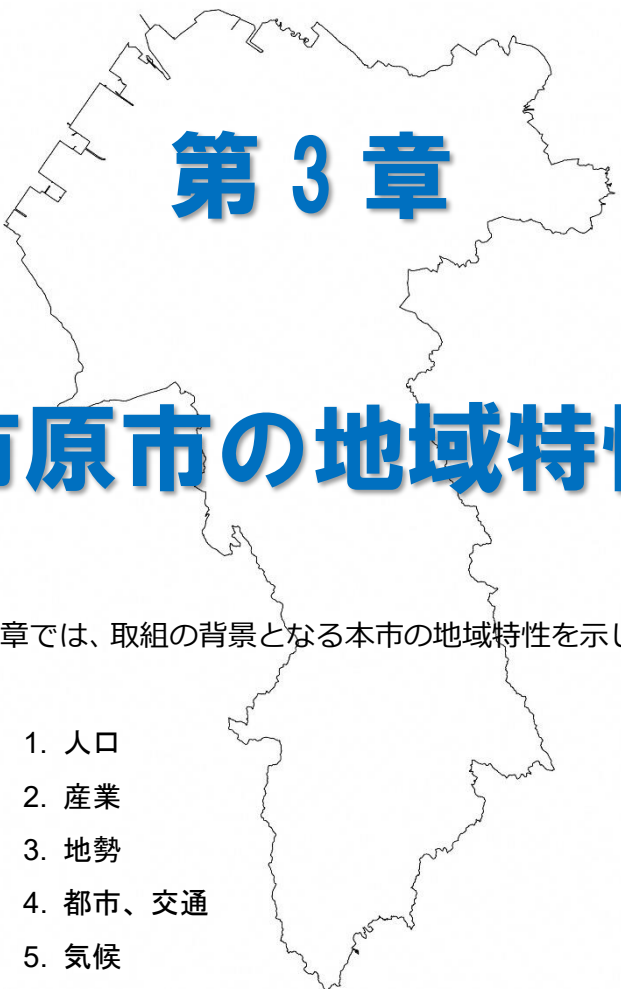




第 3 章

市原市の地域特性

第 3 章では、取組の背景となる本市の地域特性を示します。

1. 人口
2. 産業
3. 地勢
4. 都市、交通
5. 気候

1. 人口

2008年から2017年にかけて、本市の人口は280,199人から278,085人と微減、世帯数は113,347世帯から125,015世帯と微増しており、世帯人員数は縮小する傾向にあります。

市原人口ビジョン（2016年3月）では、2030年までに10%程度の人口減が予想されました。そのことを受けて、市原市総合計画では27万人規模を維持するとしています。

また、人口に関する特徴として、以下のことをあげています。

- 支所圏域の各地区（五井、姉崎、市原、辰巳台、三和、市津、南総、加茂、有秋、ちはら台）で、人口の特性が大きく異なる。
- 市津、南総、加茂で人口減少と高齢化が顕著である。
- ちはら台では比較的人口流入が進み若い世代（生産年齢、年少）が多くなっているものの、近年、高齢化も進んでいる。
- 国勢調査（2010年）では、昼間人口が常住人口を15,000人程下回り、通勤・通学先は市内56.6%、市外40.1%となっている。

市原市人口・世帯

資料：市原市人口統計 各年10月1日現在

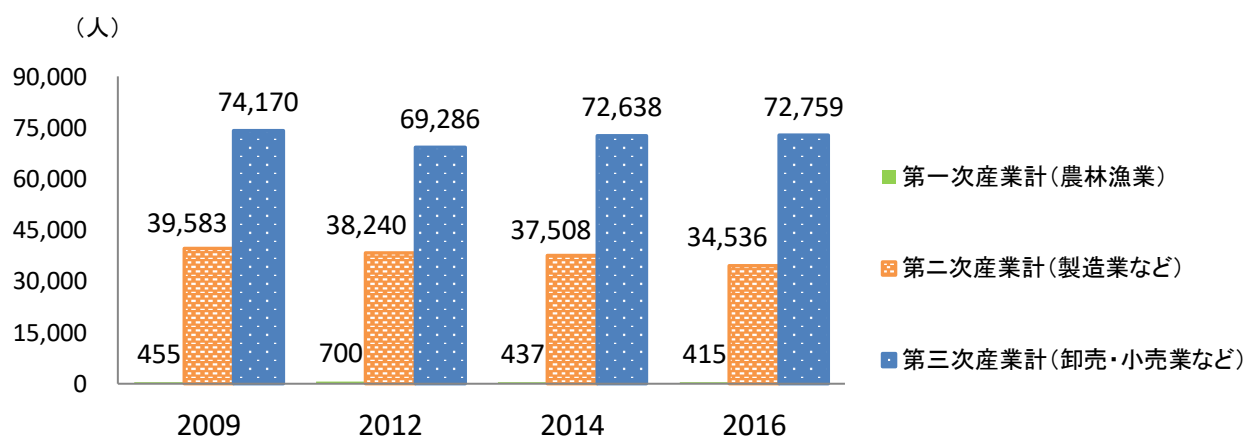
	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
世帯数	113,347	114,854	116,108	116,994	119,774	120,575	121,439
人口	280,199	279,896	279,662	278,759	282,645	281,491	280,477
	2015年	2016年	2017年				
世帯数	122,855	123,940	125,015				
人口	280,030	279,127	278,085				

2. 産業

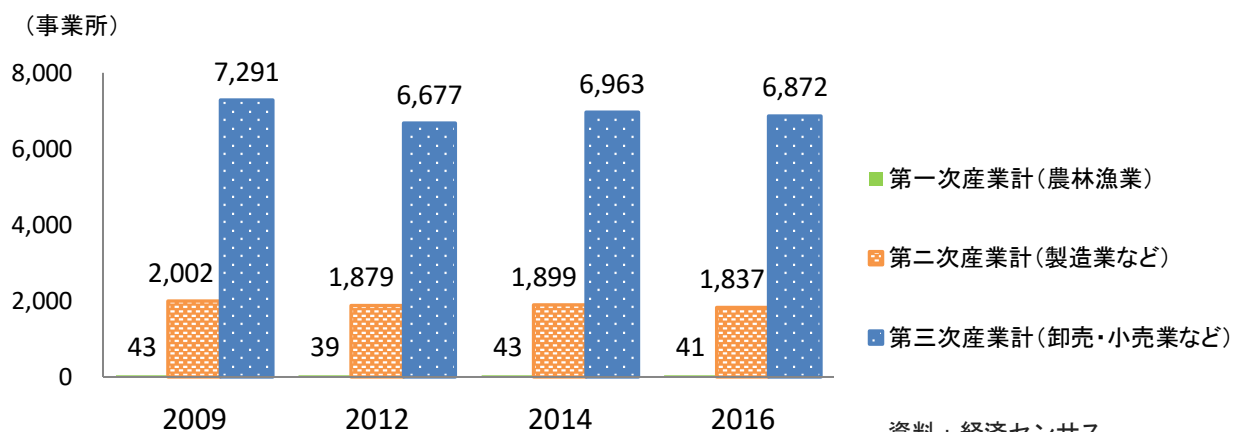
本市の産業構造には、以下の特性が見られます。

- 就業者数の面では第三次産業（商業等）が中心で全産業の7割以上を占める。
- 商業は、主に JR 内房線及び小湊鉄道の主要駅周辺や住宅団地などを中心に立地し、準商業中心都市として市原商圏を形成しており、年間商品出荷額では県下第7位である。
- 第二次産業の製造品出荷額等は県下第1位（全県の約35%）で、全国でも上位にあり、その約9割が石油化学工業である。
- 第一次産業が多くを占める中南部には豊かな自然や農地、多くのゴルフ場が存在する。

市原市従業者数



市原市事業所数



第3章 市原市の地域特性

市原市商業

単位：百万円

年間商品販売額	2007 年	2014 年
卸売業・小売業計	405,209	373,400
卸売業	155,029	136,820
小売業	250,180	236,579

単位：m²

売場面積	2007 年	2014 年
小売業	255,776	273,352

資料：商業統計

※商業統計は日本標準産業分類の改定及び調査設計の変更により 2007 年と 2014 年の数値が接続しない。

※商業統計と経済センサスでは集計対象範囲が異なる。

市原市製造品出荷額等（産業中分類による）

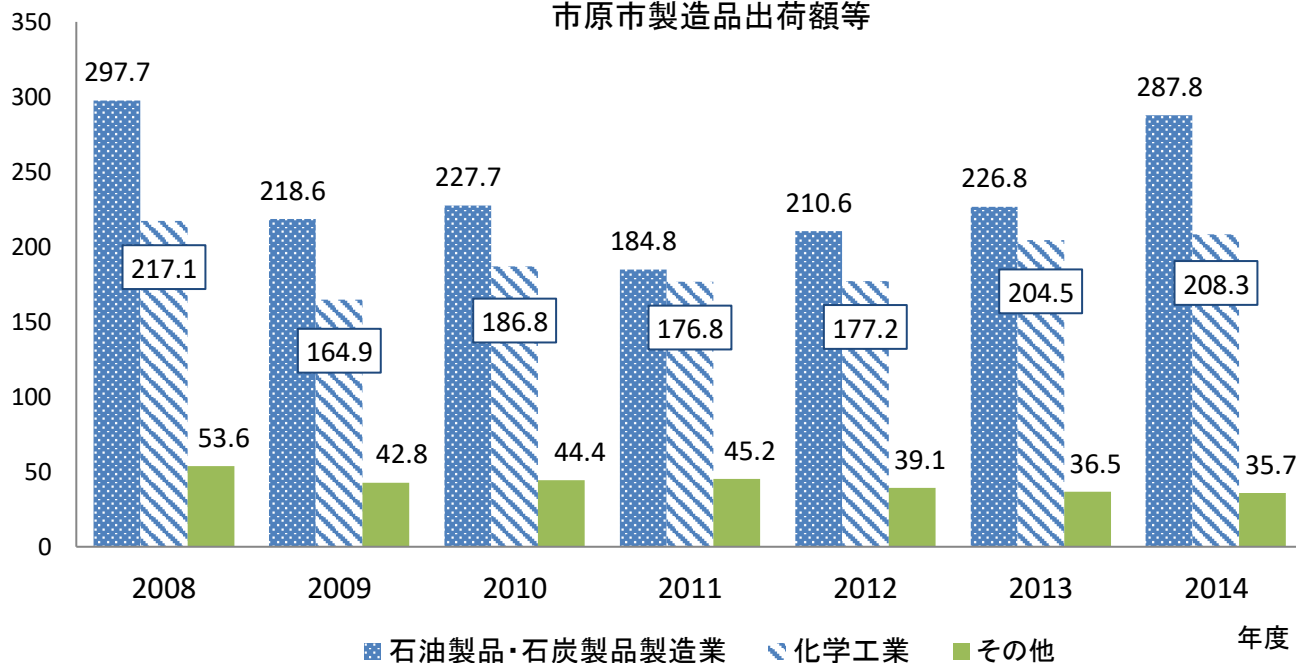
資料：日本標準産業分類改定

単位：万円

産業中分類	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
製造業計	570,044,657	427,744,287	460,304,821	408,575,197	428,510,217	469,255,449	533,720,233
化学工業	217,163,692	164,995,675	186,816,040	176,807,999	177,292,527	204,543,864	208,395,548
石油製品・石炭製品製造業	297,715,864	218,617,174	227,713,461	184,861,299	210,670,466	226,828,213	287,897,296
その他	53,620,990	42,801,888	44,458,844	45,269,524	39,170,689	36,505,012	35,743,363

百億円

市原市製造品出荷額等



3. 地勢

本市は、千葉市をはじめとする県内5市3町に隣接し、東京都心から50km圏内に位置します。市の面積は368.17km²で、県下第1位の広域市、東京湾岸域の中核的な都市となっています。

土地は、市域の約23%を山林が占めており、次いで農地が約18%、宅地15%となっています（地目別面積による）。宅地の内、工業地区が約40%を占めます。経年では、宅地が商業地区を中心に増加し、山林や農地が減少する傾向にあります。

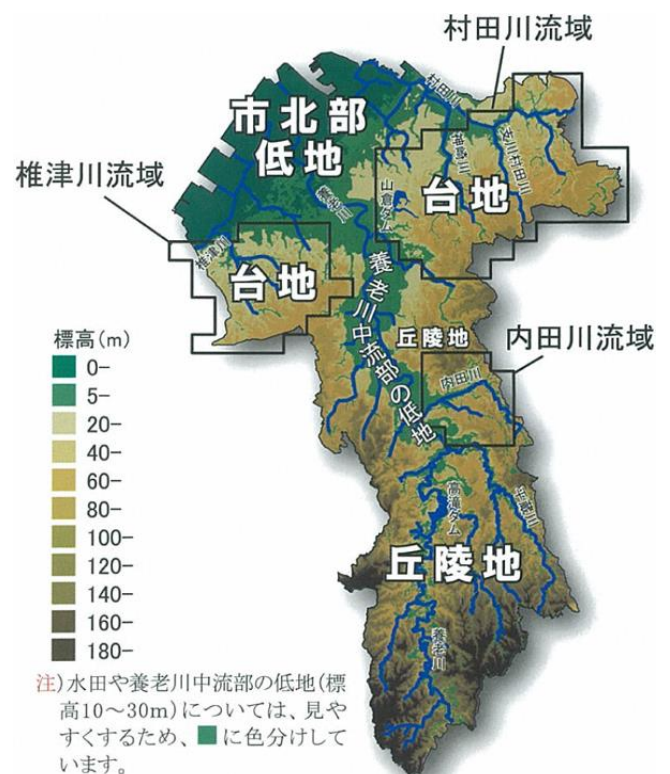
地形は、北部は東京湾岸の埋立地と、養老川等河口や旧海岸の低地から成り、南部には房総丘陵（上総丘陵）が広がり、それらの間に台地と養老川等の谷底平野が分布しています。大きくは房総丘陵（上総丘陵）の北向き斜面にあります。

養老川、村田川、椎津川の3つの河川流域に分かれており、丘陵地、溪谷、台地、谷津、水田、河川・湖沼、河口干潟など、多様な自然環境が見られます。

養老川の流域が中心となって、丘陵、台地、低地、海岸線の連続する地形と、それに沿った山、里、まちの自然環境及び景観構造を一体的に持つまちとなっています。

市原市の地形

資料：市原市自然環境マップ（2012）



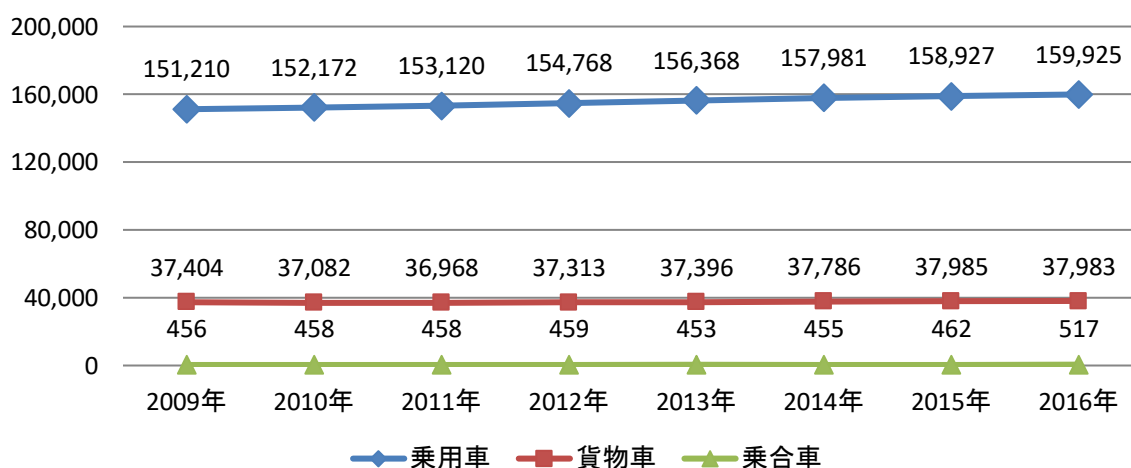
4. 都市、交通

本市は、高度経済成長とともに都市を作ってきたところで、現在にいたる経緯から次のような特徴が見られます。

- 1957 年から行われた臨海部の埋め立てにより、京葉臨海工業地帯の一部となる工業地が形成され、日本を代表する工業都市に発展した。
- 土地区画整理事業等による住宅地の整備が進み、JR 内房線沿いの連続した市街地と内陸部の大規模な市街地が形成された。土地区画整理事業の面積は市街化区域の 3 割に及んでいる。
- 1963 年 5 月に五井、市原、姉崎、市津、三和の 5 町の合併により市原市が誕生し、1967 年 10 月に南総町、加茂村を加えて概ね現在の市域が形成された。その後も埋立地等の編入があった。
- JR3 駅（八幡宿駅、五井駅、姉ヶ崎駅）を中心に商業地が形成されてきたが、マイカーの普及につれて、現在は郊外型の大規模店舗に人が集まるようになっている。
- 鉄道駅から離れた一戸建て住宅に居住し、マイカーで移動する生活が主流である。
- 公共交通は、JR 内房線、小湊鐵道、京成電鉄千原線が運行しており、JR3 駅と京成ちはら台駅を結節点とするバス路線網により、内陸部の各拠点を結んでいる。
- 路線バスは利用者減少による減便や休止が発生し、市内に交通空白地域が生じている。

市原市自動車保有台数

(台)



資料：千葉県統計年鑑（関東運輸局千葉陸運支局・千葉県軽自動車協会 各年 3 月 31 日現在登録）

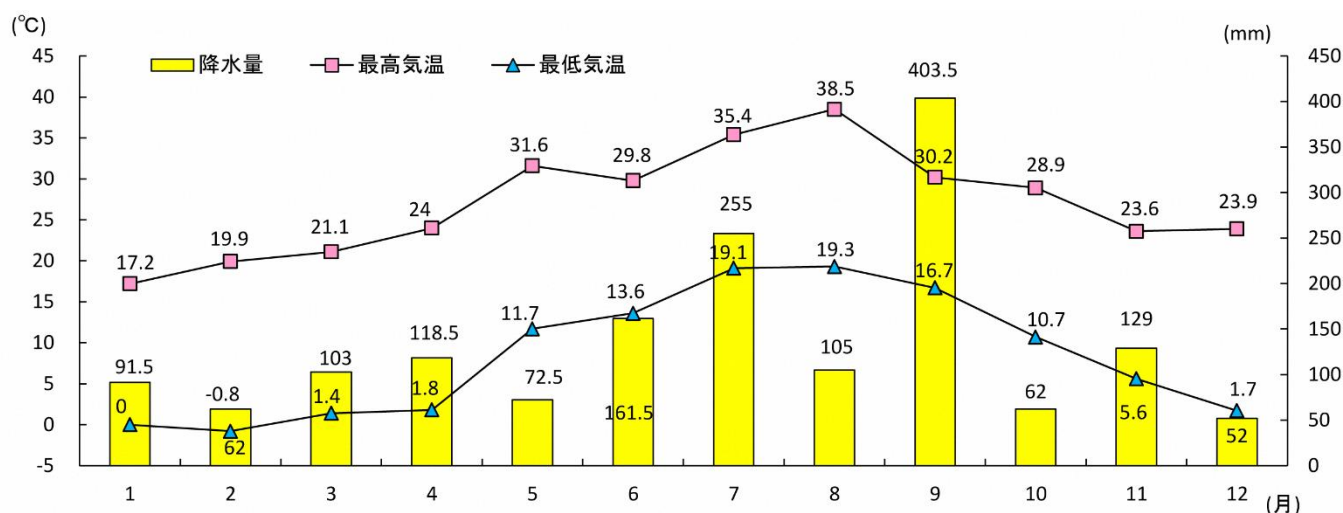
5. 気候

本市は、気候は年間を通じて温暖で過ごしやすく、降水量は比較的少なめで、全体としては穏やかで住みやすい気候です。

千葉特別地域気象観測所（千葉市）で観測されている日照時間は、平均して年間 2,000 時間程度で、全国の平均的な水準に近いといえます。

気温及び降水量の推移

資料：千葉特別地域気象観測所・2015 年



日照の推移

資料：千葉特別地域気象観測所

	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
日照時間(時間)	1873.2	1701.7	1931.8	2082.6	2039.3	2135.3	2113.4
日照率(%)	42	38	44	47	46	48	48
	2015 年	2016 年	2017 年				
日照時間(時間)	2034.1	1856.7	2054.1				
日照率(%)	46	42	46				

※日照率とは、日照時間と可照時間（日の出から日没までの時間）との比